

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	てくてく教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年11月21日	～	令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和7年11月21日	～	令和7年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達一人ひとりの特性を理解し、様々な支援を通して自己肯定感を高められるような支援を行う。	職員会で、子どもの問題行動など事例を通して意見交換をし、支援方法や対応の仕方等、共通理解を図るようにしている。	職員のさらなる資質向上を図るために、研修への参加や事業所内での研修の機会を作っていく。
2	活動プログラムが固定化しないように、一人ひとりの発達に適した活動を考慮し実施している。	療育アドバイザーによる研修を活かし、感覚統合を主軸にした活動プログラムの工夫や療育支援事業を活用し、専門的なアドバイス等を保護者の方に提供できるようにしている。	職員の専門性を高める為に、積極的に研修や講習に参加していく。
3	保護者様が、相談しやすい環境作りを大切にし、お子様の成長を共感できるよう努めている。	特に配慮が必要である保護者様は、関係機関との連携を大切にしながら、個別に声をおかけして個別相談を行っている。また、送迎時や連絡帳等で連携を図り家庭での困り感や事業所でできるようになったこと等を共有しあっている。	日頃より、保護者の方が話しやすい環境を心がけ、より丁寧に対応を行っていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会の実施。	ペアレント・プログラムは数年前までは実施していたが、現在は実施できる職員がいない。	ペアレント・プログラム実施に向けて保健師と連携を取り進めていく。
2	保育園や幼稚園との交流やその他地域で他の子どもと活動する機会を設ける。	保育園や幼稚園との交流は実施することができたが、他地域で他のお子さんと交流する機会は設けていない。	保育園や幼稚園との交流を、もう少し増やして計画を立て、地域で他のお子さんとも交流できる機会を設けられるように検討していきたい。
3	保護者会の開催や保護者同士の交流。	月1回懇談会を実施しているが、参加人数が少ないこともある。	保護者の方が参加しやすい環境を作り、保護者同士の交流を深められるようにしていきたい。